

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-130909

(43)公開日 平成10年(1998)5月19日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

A 4 1 C 1/00

A 4 1 C 1/00

C

A 4 1 B 9/04

A 4 1 B 9/04

G

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平8-288404

(22)出願日

平成8年(1996)10月30日

(71)出願人 591047796

足高メリヤス株式会社

奈良県北葛城郡新庄町大字中戸389番地

(72)発明者 足高 宏和

奈良県北葛城郡新庄町大字中戸389番地

足高メリヤス株式

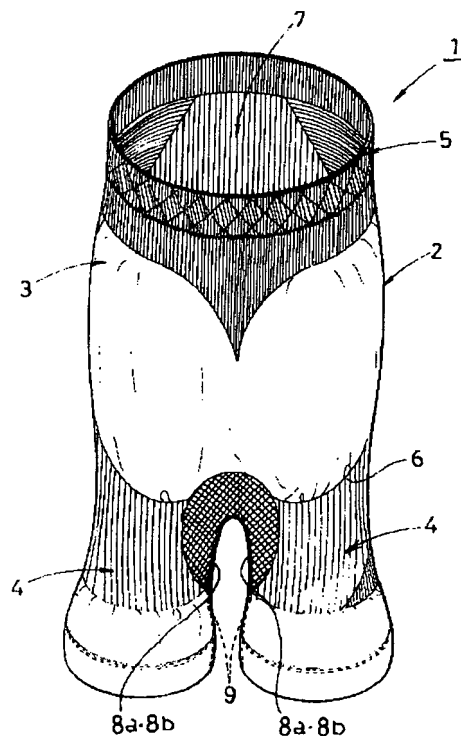
(74)代理人 弁理士 杉本 勝徳 (外1名)

(54)【発明の名称】 補正下着

(57)【要約】

【課題】締めつけ力を高めて補正力を高くしても、目立つ場所の肌に筋がつかず、且つ外部にも硬い縫合部分が現れないようにした商品価値の高い補正下着を提供できるようにするものである。

【解決手段】着用時に胴体下部及び大腿部を被覆して体型を補正する補正下着であって、縦編み機で筒状に編成され、胴体部分を被覆する円筒状の胴体部と、該胴体部下方の筒状部分の中央を裁断し、当該裁断された前と後との裁断部を縫合し、若しくは胴体部下方の筒状部分の中央を縫合する時に同時に裁断して二股の大腿部を形成したものである。



**【特許請求の範囲】**

【請求項1】着用時に胴体下部及び大腿部を被覆して体型を補正する補正下着であって、縦編み機で筒状に編成され、胴体部分を被覆する円筒状の胴体部と、該胴体部下方の筒状部分の中央を裁断し、当該裁断された前と後との裁断部を縫合し、若しくは胴体部下方の筒状部分の中央を縫合する時に同時に裁断して二股の大腿部を形成したことを特徴とする補正下着

【請求項2】前記胴体下部のウエスト若しくはその近傍部分を被覆する部分の編み地を、その他の編み地よりも伸縮弾性を強くしたことを特徴とする請求項1に記載の補正下着。

【請求項3】伸縮弾性を強くする手段として弾性糸を添糸し、または／及び編目のループ長を変更させたことを特徴とする請求項2に記載の補正下着。

【請求項4】伸縮弾性を強くする手段として編目数を変更させたことを特徴とする請求項2に記載の補正下着。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

【産業上の利用分野】本発明は着用して人体の体型を整えたり、補正したりする補正下着に関するものである。

**【0002】**

【従来の技術】従来、この種の補正下着として例えば特開平8-209404号に示されるように、縦編み機により筒状に編成された編み地の一侧の上半部を切り開き、下半部を大腿部を被覆する筒状編み地として残し、上半部の切り開かれた部分同士をリンキングやオーバーロック等により縫合して胴体下部を被覆する筒状に形成したり、図4に示すように前後左右の4枚の編み地を夫々リンキングやオーバーロック等で縫合109した所謂“四枚はぎ”形式の補正下着101が知られている。

**【0003】**

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記公報に記載されたものや、“四枚はぎ”形式の補正下着では、リンキングやオーバーロック等の縫合部分が硬く、盛り上がった状態になっていることから、これを着用し、その上からタイトスカートや柔らかな生地スカートやパンツを履いた場合、リンキングやオーバーロック等の硬い縫合部分がスカートやパンツの表面にライン状に現れてしまい、折角のボディラインを損なってしまうだけでなく、商品価値をも低下させてしまうという問題があった。

【0004】しかも、リンキングやオーバーロック等の硬い縫合部分は補正下着の内面側、即ち、肌に触れる側に形成されることから、この縫合部分で正面や側面部分の目立つ場所の肌に筋が付いてしまうという問題があった。特にこの問題は補正力を高めるために、締めつけ力を高めると顕著に現れる。

【0005】また、夫々独立した編み地を縫合して補正

下着を製作する場合、裁断部分が解れないようにしながら位置合わせし、位置があわされた状態を維持しながら当該部分を縫合しなくてはならず、手間が掛かり生産性が低くコストが高くなってしまおうという問題もあった。そこで、本発明は上記問題点に鑑み提案されたもので、締めつけ力を高めて補正力を高くしても、目立つ場所の肌に筋がつかず、且つ外部にも硬い縫合部分が現れないようにした商品価値の高い補正下着を提供できるようにすることを目的とするものである。

**【0006】**

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために本発明に係る補正下着は、先ず、着用時に胴体下部及び大腿部を被覆して体型を補正する補正下着であって、縦編み機で筒状に編成され、胴体部分を被覆する円筒状の胴体部と、該胴体部下方の筒状部分の中央を裁断し、当該裁断された前と後との裁断部を縫合し、若しくは胴体部下方の筒状部分の中央を縫合する時に同時に裁断して二股の大腿部を形成したことを特徴とするものである。

【0007】また、胴体下部のウエスト若しくはその近傍部分を被覆する部分の編み地を、その他の編み地よりも伸縮弾性を強くしたり、伸縮弾性を強くする手段として弾性糸を添糸し、または／及び編目のループ長を変更させたしたり、伸縮弾性を強くする手段として編目数を変更させたことも特徴とするものである。

**【0008】**

【発明の実施の形態】本発明にかかる補正下着の実施の形態を図面に基いて次に説明する。図1は補正下着の斜視図を示し、図中符号1は補正下着を全体的に示す。この補正下着1は、“丸編み機”と言われる縦編み機（図示せず）で編成されたものである。

【0009】この補正下着1の編成について次に説明する。先ず、図2に示すように、縦編み機で略筒状の下着本体2を編成し、この下着本体2は、上半部が胴体下部を被覆する胴体部3が形成され、下半部が太股部分を被覆する二股に分かれた大腿部4に形成されている。

【0010】胴体部3の開口側端寄り部の編成にあたっては、給糸の際にゴム等の弾性糸を添糸して編成して所定幅の締め付け部5をベルト状に形成し、当該ベルト状の締め付け部5の下方には胴体下部、特に臀部の形状を整える補正部6が形成されている。この補正部6は、臀部を収容する領域の編目の数をその他の領域の編目の数よりも多くし、臀部の下周縁に接する領域はその編み地編成する時に、弾性糸を添糸したり、またはこれに代えてもしくはこれとともに編目のループ長を変更させたり、編目数を変更させる等の伸縮弾性を強くする手段を施して形成してある。

【0011】また、詳細図は省略したが、臀部を被覆する部分に体面する補正下着1の前面部分は下腹部を引き締めるために、上記伸縮弾性を強くする手段で形成し

た引締め部7が形成されている。

【0012】次に上記のように形成された略筒状の下着本体2を図3に示すように、臀部の形状を整える補正部6の下方から下着本体2の下端にかけてその前後の各中央部分を切り開く。斯くして切り開かれた端部の前と後で対応する部分同士8a・8bをリンクングやオーバーロックにより縫合9すると図1に示す本発明の補正下着1が出来上がるのである。

【0013】上記のように形成された補正下着1を着用すると、臀部は補正部6で引き上げられて補正される。そして、この引上げ力は下着本体2の編み地全体に分散され、下着本体2の編み地に局所的な張力が作用し、これが為に皺がよったりすることが防止されるのである。

【0014】尚、上記実施の形態では下着本体2の下半部中央を裁断し、これを縫合して大腿部を形成するようにしてあるが、下着本体2の下半部中央をリンクングやオーバーロックを施すと同時に裁断するようにしても良いことはもちろんである。

【0015】

【発明の効果】本発明にかかる補正下着は、以上に説明したように、胴体部分を被覆する胴体部と、該胴体部下方の筒状部分の中央を裁断し、裁断された前と後との裁断部を縫合して二股の大腿部を形成するようにしてあるので、リンクングやオーバーロック等による縫合部分が内股部分に位置することから、これを着用し、その上からタイトスカートや柔らかな生地スカートやパンツを履いた場合でも、リンクングやオーバーロック等の硬い縫合部分がスカートやパンツの表面にライン状に現れることがなく、優美なボディラインを形成することができ、商品価値も大幅に向上させることができるという利点がある。

【0016】しかも、本発明の補正下着は、硬い縫合部分が内股部分だけに形成されることから、補正する部分、例えば臀部等の補正力を周囲に略均等に分散するこ

とができ、着用感の良いものにすることができると言う利点もある。

【0017】また、本発明の補正下着では、硬い縫合部分が内股部分に形成されており、体の正面や側面部分の目立つ場所の肌に筋が付いてしまう従来の問題も解消することができる利点もある。従って、胴体下部のウエスト若しくはその近傍部分を被覆する部分の編み地を、その他の編み地よりも伸縮弾性力を強くしたり、弾性糸を添糸して伸縮弾性力を強くしたり、編目のループ長を変更させたり、編目数を変更させて弾性力を強めて補正力を十分に高めて補正下着の商品価値を更に高めることができるという利点もある。

【0018】また、本発明の補正下着は、胴体部下方の筒状部分の中央を裁断し、当該裁断された前と後との裁断部を縫合し、若しくは胴体部下方の筒状部分の中央を縫合する時に同時に裁断して二股の大腿部を形成するようにしてあるので、夫々独立した編み地を縫合して補正下着を製作する従来のもののように、裁断部分が解れないようにしながら位置合わせし、位置が合わされた状態を維持しながら当該部分を縫合しなくても隔、簡単に生産することができ、その生産性を大幅に向上させ、その製造コストも低減することができるという利点もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の補正下着の後側の斜視図である。

【図2】本発明の補正下着を制作する下着本体部分の斜視図である。

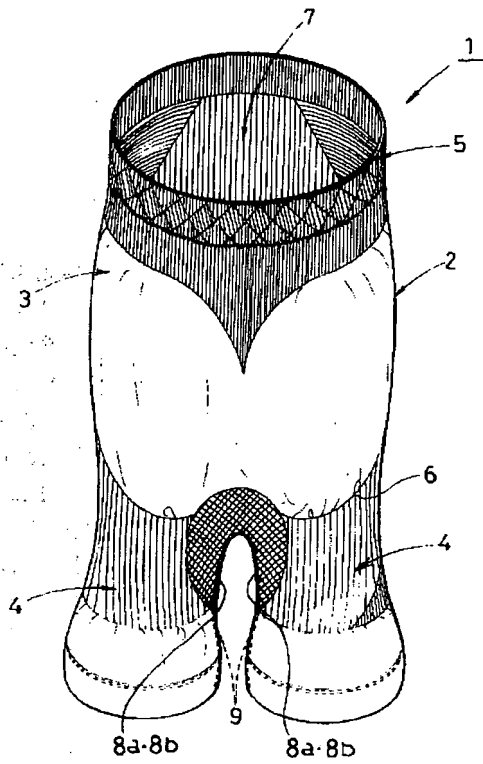
【図3】本発明の補正下着を制作する下着本体部分の大腿部を形成する前工程の斜視図である。

【図4】従来例に係る補正下着の背面図である。

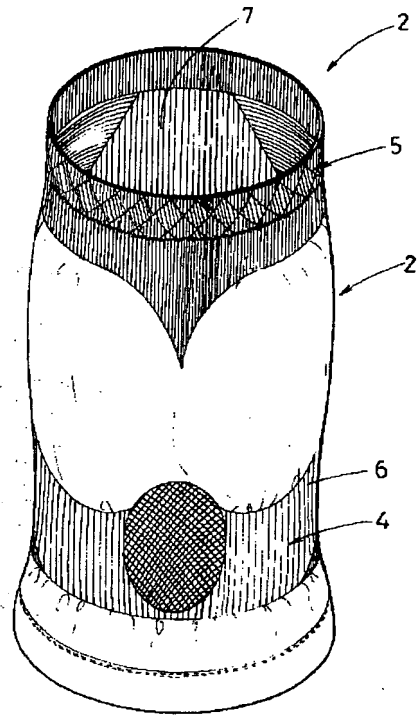
【符号の説明】

- 1・・・補正下着
- 2・・・胴体部
- 4・・・大腿部

【図1】



【図2】



【図3】

